

会 議 録

会 議 名		令和元年度 第 4 回 八王子市環境推進会議				
日 時		令和元年 12 月 18 日 (水)	開 始	14 時 00 分	終 了	16 時 05 分
場 所		八王子市役所 職員会館 第 1 会議室				
出 席 者 氏 名	委 員	<p>【環境市民会議】 金子 孝（議長）、奥村 司、高橋一郎、庄司 真人、三田 百合子、谷村 伸一、 木野 孔司、城所 幸子、山下 明子</p> <p>【市民委員】 小沼 廣、不破 敏博</p> <p>【市職員】 三宅 能彦環境部長（副議長）、木下 博文資源循環部長、南部 かや環境部環境政策課長 青木 一浩都市計画部都市計画課長（太田都市計画部長代理）</p> <p style="text-align: right;">以上 15 名</p>				
	事務局	<p>環境部環境政策課：星 学主査、峯岸 佳代子主査、三田さとみ主任、関口 香奈子臨時職員</p> <p style="text-align: right;">以上 4 名</p>				
欠席者氏名		<p>栗田 和仁、加納 啓有、 植原 康浩総合経営部長、守屋 和洋水循環部長、太田 國芳都市計画部長、 佐久間 寛まちなみ整備部長</p> <p style="text-align: right;">以上 6 名</p>				
議 題		<p>1 第 2 次環境基本計画令和元年度上半期の進捗状況について</p> <p>2 その他</p>				
公開・非公開の別		公開				
配 付 資 料		<p>【事前配付】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 令和元年度 八王子市環境推進会議委員名簿 ・ 【資料 1-2】 「第 4 章 基本目標」進捗管理シート【令和元年度上半期】 <p>【当日配付】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 【資料 1-1】 「第 6 章 地域の行動」における各地区の活動実績【令和元年度上半期】 ・ 【当日差替え資料 1-2】 「第 4 章 基本目標」進捗管理シート【令和元年度上半期】 (P3~P6) 				
内 容		<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員交替の報告 ・ 議長挨拶 ・ 配付資料の確認 <p>1 第 2 次環境基本計画令和元年度上半期の進捗状況について</p> <p>○資料 1-1 に基づき、各地区より説明した。なお、中央地区は担当委員欠席のため事務局（環境政策課）にて説明した。</p> <p>【説明内容抜粋】</p> <p>■【中央地区】「地球温暖化防止のための省エネ生活の推進」では、八王子市地球温暖化防止活動推進員の活動として、みずき通りフェスティバルや中野七夕まつりに参加し、温暖化防止ブースを展開した。また、「ごみの分別徹底とリサイクルの推進」では、市民センターまつりを中心に各種イベントに参加し、クイズなどを通してごみの分別の啓発や、生ごみのたい肥化などを推進した。</p> <p>新しい活動として、第十小学校の名札のない樹木の名前を調べるなど、緑を増やす活動を実施した。</p>				

■【北部地区】「谷地川の調査と清掃活動」では、7地点のCOD値、水温、生物調査等を実施した。CODの値について夏頃から観測数値が大幅に良くなったため、試薬についてメーカーに問い合わせを行った。また、「環境教育・環境学習などの推進」では、第八小学校と宇津木台小学校が新たに加わり、3校に対して川の学習を実施した。「地域との協働活動の推進」では、地域での知名度アップ活動として、地域の方を対象とした雑木林探検隊や、市民センターでの講座を利用して市民会議の紹介を実施した。地域の方が対象のため、今後も続けていきたいと考えている。

■【西部地区】「特定外来植物の駆除」では、大沢川と城山川のクリーン活動に併せて刈込みを実施した。「河川・湧水の水質調査」では、COD調査の試薬が変わり以前と同じ場所で値がよくなっている原因を調査中。また、全国一斉調査に参加し城山川と大沢川の13か所にて水質調査を実施した。湧水・伏流水の調査では、昨年以上の水量が見られCODも清流の結果が出た。「環境教育支援事業の実施」では、地区内の小学校を対象に環境教育支援活動を実施し、地区外についても応援を行った。

■【西南部地区】「高尾山の環境保全活動」では、年4回の自然観察及びパトロールを実施した。また、今年度から高尾レンジャーと情報交換を行った。「生活環境保全」では、不法投棄パトロールや、城山手観察・パトロール、大気汚染比色測定を実施した。「親しみのある水辺環境の構築」では、湯殿川の清掃を行ったが改善が見られないため、都と館清掃事業所にポイ捨て予防策を提案し、小学生のポスターの活用として掲示を行い、啓発をした。

■【東南部地区】「駅周辺のきれいさ評価や清掃活動」では、東南部地区内の6駅周辺に対しきれいさ調査を行った。また、9か所にて大気汚染測定を実施した。「環境フェスティバル、市民センターまつりへの出展」では、環境フェスティバルや、本庁パネル展に参加した。また、生ゴミ資源化検討委員会に参加し、ダンボールコンポスト新方式の検討と学習を行い、普及活動にも参加している。「自然エネルギーや節電・省エネの出前講座」では、クールセンターと協力をして、ソーラークッカーでの焼き芋作りなどを実施し、親子17組が参加した。その他の取組として、毎年人気である自然体験講座「イカダで川下り」を今年も計画していたが、悪天候により3年続けて中止となった。

■【東部地区】「環境教育支援事業の推進」では、由木東小学校などの地区内の小学校を対象に、川の学習を実施した。「大気汚染測定と水質調査」では、大栗川の5か所でCOD測定を実施した。水量が少ないと泥を含んでしまうため、採水方法を見直し水量の多い5か所で測定した結果、水質の結果は良いものとなった。また、「豊かな自然環境への市民の親しみ向上」では、ホームページを活用して地区の自然や歴史などの紹介、各種催しや勉強会などの情報を発信している。その他の取組としては、長池公園の片山氏を招き、水辺の生きものについて学習会を実施した。

【質疑・応答】

■北部地区について、「環境教育・環境学習などの推進」にみどりの学習とあるが、北部独自のものか。

→独自で実施しているものになる。

■北部地区について、CODの値が変化しているため調査を行っているとのことだが、どういった状況か。

→今年5月までの計測では、値が4から6となっていたが、6月からは0か1となった。試薬メーカーに確認をしたところ、薬品を変更したとのこと。しかし、メーカー側は、異常はないと言っている。試薬のロットを変更したが、やはり値は0か1となる。市はCODとBODの両方を計測しているの、比較してみる等、検証しなければならないと考えている。

■東部地区について、水量が少ないためCODの測定が5か所となったとのことだが、流水であればCODの計測できるのではないか。北部では橋の上からバケツを落として採水しているが、どのような方法で採水されているのか。良い方法があれば教えてほしい。

→橋からバケツを落として採水すると、水量が少ない場合、泥が入ってしまう。泥が入るとCODの値が悪化するため、川に入って泥が入らない水量の所のみで採水している。

→水の採水方法について、水循環部に確認をする。

(水環境整備課より、水質検査については、水だけを採取して行っている。泥を巻き上げてしまうと水質の検査とはならないとのこと。)

○資料1-2に基づき、事務局（環境政策課）より説明した

【説明内容抜粋】

■基本施策Ⅰ-1「みどりの多面的機能の活用」では、成果指標の「市が保全をすすめている里山の数」は前年度からの増減はなく3か所となっている。施策の展開として「森林の適正管理」では、林地台帳及び地図の公表を実施している。「里山の管理・活用」では、民間との協働で「親子里山保全体験講座」を1回実施し、親子13組39名が参加した。

■基本施策Ⅰ-2「森林の循環の強化」では、成果指標を「八王子産の木材を含む多摩産材を普及・啓発し、活用をすすめる」とし、施策の展開として「木材利用の推進」では、長池公園等の剪定枝を北野清掃工場の木質バイオマスボイラー（足湯併設）に搬出した。

■基本施策Ⅰ-3「まちなかのみどりの保全・創出」では、成果指標の「グリーンマッチング八王子制度を利用し管理している緑地の数」は2か所でH30年度実績から1か所増加した。「市民1人当たりの都市公園面積」は、現時点では実績が出ていない。また、施策の展開として「斜面緑地の保全」では、里山保全活動に携わる人材の育成講座を実施し、フォロー講座やステップアップ講座を実施した。「まちなかの緑化」では、駅前の花づくり事業への支援として、八王子駅北口・南口、南大沢駅、めじろ台駅に花苗等を支給した。

■基本施策Ⅰ-4「水資源の保全と再生」では、成果指標の「雨水流出抑制対策率」が39.6%となり微増した。施策の展開として「雨水浸透施設の設置促進」では、浸透管、浸透ます、浸透性舗装、浸透トレンチの設置を実施した。

■基本施策Ⅰ-5「良好な水質の保全」では、成果指標を「市内8河川9地点のBOD環境基準値」とし、達成率は100%となっている。施策の展開として「生活排水対策の推進」では、公共下水道接続率98.3%の見込みとなっており、公共下水道への未接続家屋へ戸別訪問の際、接続促進と併せて浄化槽の使用三大義務（保守点検・清掃・法定検査）の履行について、19件の指導を行った。

■基本施策Ⅰ-6「生物多様性の保全」では、成果指標の「生物多様性の必要性を理解している市民の割合」は31年度市政世論調査にて38%となっている。施策の展開として「生きものの生息環境の保全・創出」では、自然体験学習としてガサガサ探検隊や、水辺のかんきょう教室を実施した。また「外来生物対策の推進」では、外来種であるアメリカザリガニの駆除を実施した。

■基本施策Ⅱ-1「ごみの発生抑制と資源化の推進」では、成果指標を「1人1日あたりのごみ総排出量」とし、上半期実績は集計中となっている。施策の展開として「家庭系ごみの減量と資源化の推進」では、広報特集号「ごみゼロ通信」で食品ロスを特集した。また、ダンボールコンポスト等の講習会を開催するほか、校内活用モデル事業を3校で実施した。

■基本施策Ⅱ-2「廃棄物の適正処理」では、成果指標の「埋立処分量の推移」は0tとなっている。施策の展開として「資源・エネルギーの有効利用の推進」では、剪定枝資源化の本格実施に向け、市内6,000世帯をモデル地域（3か所）とし、剪定枝の収集及び資源化（約12t）を実施した。

■基本施策Ⅱ-3「二酸化炭素（CO₂）排出量の削減」では、成果指標の「市民1人当たりの年間CO₂排出量の削減割合（平成12年度比）」は平成28年度を最新値とし、25.0%となっている。施策の展開として「家庭の取組支援」では、7・8月に「省エネチャレンジ2019」を実施し、8,722世帯が参加した。また、みどりのカーテン講座及びみどりのカーテンコンテスト（応募数123作品）を開催した。

■基本施策Ⅱ-4「再生エネルギーの普及拡大」では、成果指標の「市内に設置された太陽光発電装置の発電容量」は、上半期実績は集計中となっている。H30年度実績について、H30.12月末時点の実績が46MWと報告していたが、集計が出来たので年度実績を47MWと報告する。施策の展開として「再生可能エネルギーの普及拡大」では、再生可能エネルギー利用機器設置費補助として、太陽光発電システム、太陽熱利用システム、木質ペレットストーブの補助申請を88件受け付けた。

■基本施策Ⅱ-5「低炭素型まちづくり」では、成果指標の「エネルギーを効率的に利用するまちづくりに着手している箇所数」は0か所となっている。施策の展開として、「低炭素型まちづくりの推進」では、重点促進地域に指定した「八王子駅地区・西八王子駅地区」「多摩NT 鎌水地区」「八王子西 IC 川口地区」で導入施策の準備を行っている。

■基本施策Ⅲ-1「環境教育・環境学習の推進」では、成果指標の「環境に関する講座や講演に参加している人の数」は、12,993人となっている。施策の展開として、「環境学習の拡充」では、北野環境教育・環境学習委員会において、自然環境講座やイベントを開催した。また「環境保全に精通した人材の育成・活用」では、環境学習リーダー等が環境教育

支援事業に参加した。

■基本施策Ⅲ-2「環境情報の提供、収集及び活用」では、成果指標の「日常生活において常に地球環境に配慮して暮らしている市民の割合」は、31年度市政世論調査の結果で51.3%となった。施策の展開として「役立つ環境情報の発信」では、環境フェスティバルの開催・はちエコポイントの紹介・雨水貯留槽設置のPR・ごみの分別などをテーマにした広報紙「エコシティ八王子」を発行した。

■基本施策Ⅳ-1「美しく快適なまちの保持」では、成果指標の「まちの美観が保持されていると思う市民の割合」は、31年度市政世論調査の結果で55.1%となっている。施策の展開として「まちの美化の推進」では、「みんなの町の清掃デー」「みんなの川の清掃デー、秋のまちの清掃デー」を実施した。また、平日の夜間パトロールや監視システムによる不法投棄の抑制及び早朝パトロールによる持ち去りの抑制を行っている。

■基本施策Ⅳ-2「安全で健康な暮らしを守る」では、成果指標の「周囲の生活環境（大気汚染、騒音・振動）について良いと感じている市民の割合」は、31年度市政世論調査の結果で45.6%となった。また「光化学オキシダント昼間の1時間値が0.06ppm以下の日数」は、108日となっている。施策の展開として、「公害防止対策の推進」では、市内7か所で大気の常時監視を実施し、ホームページに毎時間速報値を掲載した。

【質疑・応答】

■P9 基本施策Ⅱ-3について、省エネの取組として、空調や照明など日常的に取り組む必要があり実際に取り組んでいるが、マンネリ化してしまう。達成感のある表現やステップアップできるような意識付けが必要ではないか。

→努力した結果が目に見えることは、次のステップアップにもつながり重要と考える。地球温暖化対策地域推進計画の中でも市民にわかりやすく表現できるよう工夫していきたい。

■自分がどれ位のCO₂を排出しているのか、市民1人1人に責任があるということをもっと表すと、市民の意識が変わるのではないか。

→身近なことで削減できることを示せば、CO₂排出量の削減に参加しているという認識に変わるため、とても重要と考える。

■家庭で出来ることとして、樹木のカーテンを行っている。木を1本植えると、どれ位のCO₂排出量が削減できるか簡易計算で確認することが出来る。わかりやすいことが必要である。

■P1 基本施策Ⅰ-1の施策の展開「森林の適正管理」について、裏高尾の荒井地区で床上浸水があった。その原因は、林野庁が杉林を伐採し、材木を搬出せず植林地に横並びに置いた状態になっていたため、大雨で流れてしまい、人道橋にかかりダムのような状態となって、溢水してしまった。人道橋の管理は市のため修復は市がやらなければならないし、人道橋にはごみが溜まってしまい、ボランティアにて清掃活動をしている。多面的機能は壊され、森林の適正管理という点から、市として林野庁に申し入れをして何か対応するべきではないか。

→原因の特定は難しいと思われる。関係部署に報告する。

■P7 基本施策Ⅱ-1「家庭系ごみの減量と資源化の推進」の実績で、生ごみ資源化の手法（主にダンボールコンポスト）の周知啓発となっているが、家庭にどれくらいダンボールコンポストを普及したいと考えているのか。

→現在の計画の中では、何らかの方法で生ごみ資源化に取り組む世帯を全世帯の10%で考えている。

■ダンボールコンポストを推進していくのであれば、補助金等にもう少し力を入れてほしい。

→生ごみの補助金の補助率については、電気式を下げ、手間をかけ努力をしている人に増やす工夫はしていく。

■P12 基本施策Ⅲ-1の「環境保全に精通した人材の育成・活用」で、環境学習リーダー養成講座の参加者が8人しかいない。市としてきちんとした制度を作り、応募者の確保をしていかないと益々人が減ってしまう。応募者の確保が他人任せになっているのではないか。

→参加人数を増やしていかなければならないと考えてはいる。現在の学習リーダーと相談し、制度の見直しも含め考えていきたい。

■東南部は活動している会員が10名弱で、活動に参加していない会員をどうするか検討している。市から連絡を入れて頂いた方が良いと考えるが、そういった連絡はしていただ

るのか。

→相談に乗ることは可能だが、市民会議は独自の活動を行う組織であり、基本的には各市民会議で行っていただきたい。

■西南部は担当が3つに分かれており活動も活発に行われている。今年も新規会員が4名増加した。各地区でそれほど変わりはないと思うので、核になる人が必要なのではないのか。

■活動に対するPRは重要で、八王子の政策などについても広報を使ってもっとPRすべきである。東京都の広報の様にA3にするなど、ページ数を増やしていただきたい。

→市内では多くの団体が活動しており、市民会議だけで多くの枠を取ることは難しいが、環境部門は6月1日号に環境の折り込みページを入れられることが強みであり、これを最大限に利用し、PRをしていきたい。

■東部はホームページに色々な情報を載せているとのことなので、市役所のホームページに、環境市民会議のリンクを貼れば広報よりも早く情報を出せるのではないのか。

→Facebookを持っているので、ぜひ情報を頂きたい。

■透水性舗装や、浸透ますの設置は市道のみが対象か。都道は行えないのか。

また、集合住宅などを作る際に、雨水の処理やみどりについての指導要綱はあるが、もっと強制力のある条件を作ることはできないのか。

→都道は都で行っている。国道、都道以外については市が対応している。指導要綱については、環境を守る条件ということで、意見として伺っておく。

■P2 基本施策 I-2 で、市の建物を建てる際に、多摩産材を使うという強制力はあるのか。強制力がない場合は、示した方が良いのではないのか。また、使用した場合どのように記録しているのか。

→「公共建築物等における多摩産材利用推進方針」ができ、極力使っていくという方針になっている。予算などの都合もあり強制的にはしていない。使用状況については、環境白書の中で公表している。最近では、平成29年の599ミュージアムや、由木東小学校の改築に使われている。また、八王子市役所内の保育園建設にも使われている。

■台風19号の影響で河川敷に大量の木材が流れてきている。木材チップ等に出来るのではないのか。

→土砂で汚れているような状態では難しいと考える。

■保存樹木は由来がないと指定することが出来ないと言われている。相模原市では大きいという理由だけで保存樹木に指定されているので、八王子市でも残したい意向のある木は保存樹木に指定したり、助成することは出来ないのか。市のお墨付きをもらえれば、残していける可能性が高くなるのではないのか。

→自治体によって補助金の有無などは異なるが、そういった指定が出来るようになっている。しかし、八王子の場合は単独で大きい木というのはそれほど存在しない。指定されることで残せる可能性はあるかと思うが、地域の状態によって異なると思われる。また、八王子市の施策としては樹林地を残していこうとしているため、文化財指定なども含めて、庁内で連携をとって考えなければならないと思っている。

■P10 基本施策 II-4 施策の展開の取組実績に、再生可能エネルギー利用機器設置費補助として補助申請を受け付けたとあるが、補助申請とはどういったものか。また、88件の補助申請を受付とあるが少ないのではないのか。

→太陽光発電システムは1KWあたり2万円、上限10万円、太陽熱利用システムは5万円、木質ペレットストーブは設置費の1/2の金額、上限10万円の補助をしている。また、HEMSを入れた家はプラス1万円の補助を行っている。

受付件数については、太陽光発電システムでは1件あたり8万円前後の補助となっており、全ての補助に対して年間の予算が1千万円あるため、100件前後に対して補助を行うことになる。

■情報を得るためにインターネットから情報を検索する人が多いため、検索にヒットしやすい広報にして欲しい。

→キーワード検索でヒットしやすくなるように工夫していく。

2 その他

■市民の方より、台風の時などに拡声器から放送が流れるが、聞き取りにくいと言われている。スピーカーの問題もあるがハード面だけではなく、ソフト面でも対応を検討して頂きたい旨、防災担当に伝えてほしい。

■12月15日から1月20日にかけて実施されるパブリックコメントについて、事務局（環

	<p>境政策課)より報告した。</p> <p>■会議録の署名について、事務局(環境政策課)より説明し、高橋一郎委員に署名を依頼する旨伝えた。</p> <p>■以上をもちまして、令和元年度 第4回八王子市環境推進会議を終了します。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>署名人</p>	<p>令和2年 2月 1日 署名人 高橋 一郎</p>